公益社団法人日本臨床矯正歯科医会

矯正歯科専任スタッフキャリアアップ支援制度

Staff Career Advancement Program（SCAP）

【歯科助手業務】

院内研修達成評価ガイドライン

2026 年

SCAP における歯科助手の業務範囲について

歯科助手は資格のないスタッフの総称であり、医療行為は一切できません。また、受付や TC の担当者に適切に指導・教育・トレーニングを行えば歯科助手としての業務を担当させても何ら問題はありません。

歯科助手は歯科衛生士と異なり、患者の口腔内に直接触れる治療行為は認められていません。これは「医業の無資格者による実施」に該当する可能性があり、法的に厳しく制限されています。ただし、歯科助手が「医行為に該当しない範囲」で補助業務を行うことは可能です。

歯科助手が行える業務は、例えば器具の洗浄・消毒・準備、診療補助（器具の受け渡し、口腔内の唾液吸引のバキューム操作）など、「間接的な診療補助」は許されていますが、明確に「処置」「操作」「塗布」などを口腔内で行うのは違法とされます。「患者の口腔内に器具を挿入する行為」（例としてミラーの使用やフッ化物の塗布など）も、歯科医師又は歯科衛生士以外が行うことは基本的に認められないとされています。

また、レントゲン機器の操作や位置決め（セファログラムを含む）は、口腔内に触れず、診断判断を伴わない作業であれば補助業務として認められ得ると解釈されていますが、国家資格者の教育・指導・監督が前提で行うべきという要件づきで容認されているものです。ブラッシング指導を含む歯科予防処置なども、歯科衛生士の法定業務です。

一方、保健指導など（食事・清掃方法、MFT など）は、患者の口腔内に触れることなく説明資料を用いた補助的説明は可能ですし、アライナーの装着説明や指導などは、装着に関する説明・指導は不可、装着に関わらない補助的説明（洗浄法、管理法の説明など）は可能です。

臨床現場においては歯科衛生士と歯科助手の業務範囲の違いをよく理解しておくことが重要です。歯科助手はあくまで「診療補助（非医療行為）」に限られ、患者の口腔内に触れる行為、薬剤塗布、診断補助的行為はすべて禁止されています。

代表的な歯科助手の業務に関する可否一覧

以下に、現場で問題になりやすい代表的な業務についての可否と根拠を整理します。

業務内容	可否	条件・根拠
口腔内バキュームの使用	可	唾液・水の吸引補助器具であり、侵襲的処置ではない。診療補助の範囲。
デンタルミラーの口腔内使用	原則不可	「処置」「診査」に類似する要素を含む。歯牙・装置の観察、異常確認、治療補助としての使用は医業行為に近づくため違法と判断される可能性が高い。
口腔内写真撮影時のミラー挿入	不可	写真撮影自体やカメラ操作は可だが、ミラーを口腔内に挿入・保持することは歯科衛生士業務に該当する。
可撤式矯正装置の試適	不可	医療行為に該当。矯正装置の試適・装着は歯科医師の専権事項。
MFT（口腔筋機能療法）	条件付き可	口腔外から舌・口唇のトレーニングを説明・指導、動画資料による家庭練習方法の説明、見本の提示は可。口腔内に触れる指導は不可。
保健指導	条件付き可	模型を使用した歯磨き方法の説明等、患者の口腔内に直接触れない方法での保健指導は可。実際に歯ブラシで指導する行為は不可。
X 線機器の操作・位置決め	条件付き可	口腔内に触れず、診断判断を伴わない補助業務として、国家資格者の教育・指導・監督の下で容認される。
アライナーの装着説明・指導	条件付き可	装着に関する説明・指導は不可。装着に関わらない補助的説明（洗浄法、管理法）は可。
フッ化物の塗布	不可	口腔内への器具挿入・薬剤塗布を伴う医療行為。歯科医師・歯科衛生士の業務。
器具の洗浄・消毒・準備	可	間接的な診療補助の範囲。

1．滅菌・消毒と感染予防対策

概論

・滅菌・消毒の意義及び感染予防対策に関する基礎的知識を有している。

・矯正歯科治療において、滅菌・消毒や感染予防対策が必要な場面を説明できる。

・滅菌・消毒の方法や器具、感染予防対策に必要な薬剤を説明できる。

各論

①滅菌・消毒の種類（難易度　A）

・矯正歯科治療での滅菌・消毒に用いられる器材や消毒時間を説明できる。

・滅菌・消毒の目的によって、適切な器材や薬品を選択できる。

②滅菌・消毒の手順（難易度　A）

・滅菌消毒の種類に沿って、トレー付着物の除去、水洗、清掃から滅菌・消毒完了までの手順を説明できる。

③滅菌・消毒後の清浄保存（難易度　A）

・滅菌・消毒完了後の清浄保存の意義を理解し、方法を説明できる。

④感染予防対策（難易度　B）

・医療現場で多い体液を介して感染する感染症を理解し、直接感染や交差感染予防の手法を説明できる。

⑤他者への指導（難易度　C）

・他者に滅菌・消毒及び感染予防対策について指導ができる。

2．廃棄物の分別

概論

・診療室から排出される廃棄物の種類と管理・処理に関する基礎的知識を有している。

・矯正歯科治療において、廃棄物の種類が一般歯科と異なる部分・共通の部分などを説明できる。

各論

①産業廃棄物、感染性廃棄物の分類・管理・処理（難易度　A）

・診療室から排出される廃棄物の感染性・非感染性について説明できる。

・各廃棄物の分類と管理について説明できる。

・廃棄物処理におけるマニフェストの整理保存について説明できる。

・撤去された装置類の分別処理について説明できる。

②撤去された装置類の処理（難易度　A）

・撤去された装置類、特にワイヤーや金属類の廃棄方法を説明できる。

③排出の手順（難易度　A）

・一連の排出手順について、廃棄物の種類ごとに説明できる。

④マニフェスト（難易度　A）

・マニフェストの必要性を理解し、確認・整理・保存の方法を説明できる。

⑤他者への指導（難易度　C）

・他者に廃棄物の分別について指導ができる。

３．印象採得

概論

・印象材及び印象採得に関する基礎的知識を有している。

・矯正歯科治療において、印象採得が必要な場面を説明できる。

・印象採得に用いられる器具を説明できる。

各論

①印象材の種類（難易度　A）

・矯正歯科治療での印象採得に用いられる印象材を説明できる。

・印象の目的によって、適切な印象材を選択できる。

②印象採得の手順（難易度　B）

・印象材の種類に沿って、トレーの試適から採得完了までの手順を説明できる。

・印象材の練和等の準備ができる。

③歯科医師の指示の下での補助（難易度　B）

・歯科医師の指示の下で、適切な印象採得の補助ができる。

④他者への指導（難易度　C）

・他者に印象採得の補助について指導ができる。

４．矯正装置撤去の補助

概論

・撤去しなければならない矯正装置（特にブラケット、バンド）、及び装置が装着されている歯の構造に関する基礎的知識を有している。

・矯正歯科治療において、矯正装置の撤去が必要な場面を説明できる。

各論

①撤去に用いられる器具（ブラケット）（難易度　A）

・ブラケットを撤去する際に用いられる器具を説明できる。

②撤去に用いられる器具（バンド）（難易度　A）

・バンドを撤去する際に用いられる器具を説明できる。

③撤去の手順（難易度　B）

・一連の撤去手順について、装置ごとに説明できる。

④撤去時の注意点（難易度　C）

・撤去時に起こりうるトラブルを列挙できる。

・上記のトラブルについて、可及的に回避できる方法を説明できる。

⑤歯科医師の指示の下での補助（難易度　C）

・歯科医師の指示の下で、適切な装置撤去の補助ができる。

⑥他者への指導（難易度　C）

・他者に装置撤去の補助について指導ができる。

5．バンディングの補助

概論

・歯の解剖学的形態に関する基礎的知識を有している。

・矯正歯科治療において、バンディングが必要な場面を説明できる。

各論

①バンディングに用いられる器具、装置、材料（難易度　A）

・バンディングする際に用いられる器具と材料を説明できる。

②手順（難易度　A）

・一連のバンディング手順について説明できる。

・バンドセメント等の準備ができる。

③患者へ伝えるべき注意事項（難易度　B）

・装着後に患者に説明すべき項目を、起こりうるトラブルも含め列挙し、説明できる。

④歯科医師の指示の下での補助（難易度　B）

・歯科医師の指示の下で、適切なバンディングの補助ができる。

⑤他者への指導（難易度　C）

・他者にバンディングの補助について指導ができる。

6．ボンディングの補助

概論

・歯の解剖学的形態、及び解剖学的構造に関する基礎的知識を有している。

・矯正歯科治療において、ボンディングが必要な場面を説明できる。

各論

①ボンディングに用いられる器具、装置、材料（難易度　A）

・ボンディングする際に用いられる器具を説明できる。

・ボンディングする装置（主にブラケット）を説明できる。

・ボンディングする際に用いられる材料を説明できる。

②手順（難易度　A）

・一連のボンディング手順について説明できる。

③患者へ伝えるべき注意事項（難易度　B）

・ボンディング後に患者に説明すべき項目を、起こりうるトラブルも含め列挙し、説明できる。

④歯科医師の指示の下での補助（難易度　B）

・歯科医師の指示の下で、適切なボンディングの補助ができる。

⑤他者への指導（難易度　C）

・他者にボンディングの補助について指導ができる。

7．アーチワイヤー屈曲の補助

概論

・矯正歯科治療に用いられるワイヤーに関する基本的知識を習得する。

各論

①屈曲に用いられる器具、材料（難易度　A）

・屈曲に用いられる器具や材料を列挙し、その使用目的について説明できる。

②矯正歯科治療に用いられるワイヤーの種類と特性（難易度　B）

・矯正歯科治療に用いられるワイヤーの種類を列挙し、その特性について説明できる。

③歯科医師の指示の下での補助（難易度　B）

・歯科医師の指示の下で、適切なアーチワイヤー屈曲の補助ができる。

④他者への指導（難易度　C）

・他者にアーチワイヤー屈曲の補助について指導ができる。

8．結紮の補助

概論

・矯正歯科治療において、結紮の意味を説明できる。

・結紮の種類を説明できる。

各論

①結紮に用いられる器具、材料（難易度　A）

・結紮する際・結紮除去する際に用いられる器具を説明できる。

・結紮する際に用いられる材料を説明できる。

②手順（難易度　A）

・一連の結紮・結紮除去の手順について説明できる。

③患者へ伝えるべき注意事項（難易度　B）

・結紮後に患者に説明すべき項目を、起こりうるトラブルも含め列挙し、説明できる。

④歯科医師の指示の下での補助（難易度　B）

・歯科医師の指示の下で、適切な結紮の補助ができる。

⑤他者への指導（難易度　C）

・他者に結紮の補助について指導ができる。

9．X 線撮影の補助とトレーシング

概論

・矯正歯科治療において、各種 X 線撮影を行う意味を説明できる。

各論

①X 線（セファログラム、デンタル、パノラマ、CT 他）撮影時の患者の位置づけ（難易度　A）

・X 線撮影時の患者の位置づけについて説明できる。

②セファロのトレーシングに用いられる器具、材料（難易度　B）

・トレーシングする際に用いられる器具を説明できる。

・トレーシングする際に用いられる材料を説明できる。

③分析ポイント（難易度　C）

・トレーシング上の分析ポイントが列挙できる。

・トレーシング上の分析ラインが列挙できる。

④歯科医師の指示の下での補助（難易度　C）

・歯科医師の指示の下で、X 線撮影及びトレーシングの補助ができる。

⑤他者への指導（難易度　C）

・他者に X 線撮影及びトレーシングの補助について指導ができる。

１０．写真撮影（顔面、口腔内）の補助

概論

・矯正歯科治療において、写真撮影（顔面、口腔内）する意味を説明できる。

各論

①写真撮影時の患者の位置づけ（難易度　A）

・顔面撮影時の患者の位置づけについて説明できる。

・口腔内撮影時の患者の位置づけについて説明できる。

②写真撮影に用いられる器具、材料（難易度　A）

・顔面写真を撮影する際に用いられる器具・材料を説明できる。

・口腔内写真を撮影する際に用いられる器具・材料を説明できる。

③手順（難易度　A）

・顔面写真撮影手順について説明できる。

・口腔内写真撮影手順について説明できる。

④写真のチェック項目（難易度　B）

・出来上がった顔面写真のチェックする部位を列挙し説明できる。
・出来上がった口腔内写真のチェックする部位を列挙し説明できる。

⑤歯科医師の指示の下での補助（難易度　B）
・歯科医師の指示の下で、適切な写真撮影の補助が実践できる。

⑥他者への指導（難易度　C）
・他者に写真撮影の補助について指導ができる。

１１．MFT（筋機能訓練）の補助

概論
・口腔周囲筋が歯ならびに及ぼす影響について説明できる。
・矯正歯科治療において、MFT（Myofunctional Therapy、筋機能訓練）をする意味を説明できる。

各論

①MFT に用いられる器具、材料（難易度　A）
・MFT をする際に用いられる器具・材料を説明できる。

②手順（難易度　B）
・MFT の一連の流れについて説明できる。

③MFT 時のチェック項目（難易度　B）
・各 MFT 項目のポイントが説明できる。
・各 MFT 項目のゴールが説明できる。

④歯科医師の指示の下での補助（難易度　C）
・歯科医師の指示の下で、適切な MFT の補助ができる。

⑤他者への指導（難易度　C）
・他者に MFT の補助について指導ができる。

１２．治療中の歯科保健指導の補助

概論
・カリエスや歯周病の発生機序を説明し、矯正装置装着時特有の口腔内環境について理解できている。

・矯正歯科治療において、歯科保健指導が必要な場面を説明できる。

各論

①歯科保健指導に用いられる器具、装置、材料、媒体（難易度　B）

・歯科保健指導する際に用いられる器具、装置、材料、媒体を列挙し説明できる。

②患者へ伝えるべき注意事項（難易度　B）

・矯正装置装着中の口腔環境を適切に維持する方法について、患者に説明すべき項目を列挙し、説明できる。

③歯科医師の指示の下での補助（難易度　B）

・歯科医師の指示の下で、患者に対して適切な歯科保健指導の補助が実践できる。

④他者への指導（難易度　C）

・他者に歯科保健指導の補助について指導ができる。

１３．可撤式・固定式装置の取り扱い説明の補助

概論

・一般的な可撤式・固定式装置の種類を列挙し、その特徴や治癒機序をある程度説明できる。

各論

①可撤式装置の使用法（難易度　A）

・可撤式装置装着時の使用法を説明できる。

②固定式装置の使用法（難易度　A）

・固定式装置装着の使用法を説明できる。

③患者へ伝えるべき注意事項（難易度　B）

・装置装着時及び使用時に起こりうるトラブルも含め、患者に説明すべきことを理解し説明できる。

１４．初診時・治療途中での治療説明の補助

概論

・一般的な矯正歯科治療の流れを理解し、各装置の特徴や治癒機序をある程度説明できる。

各論

①初診時の治療説明（難易度　A）

・担当歯科医師からの指示の元に初診時に説明すべき内容を抽出し、順序だてて治療の流れや装置について説明できる。

・患者の主訴に基づいた適切な説明が出来る。

②治療途中での治療説明（難易度　B）

・担当歯科医師からの指示の元に治療途中に説明すべき内容を抽出し、その時の治療段階を理解し、治療の流れや装置について説明できる。

・患者からの質問に基づいた適切な説明が出来る。

③治療のリスクとクレーム対応（難易度　B）

・矯正歯科治療に伴う一般的なリスクや副作用について説明できる。

・患者からのクレーム対応に関する基礎知識と院内ルールを説明できる。

④他者への指導（難易度　C）

・他者に初診時・治療途中での治療説明について指導ができる。

１５．デジタル業務の補助

概論

・自院にあるデジタル機器の種類と取り扱いの説明が出来る。

各論

①デジタル検査機器（難易度　A）

・各種検査データの整理・保存ができる。

・各種検査データの分析の手順と補助について説明できる。

②光学印象器（難易度　A）

・光学印象の手順について説明できる。

③他者への指導（難易度　C）

・他者にデジタル業務の補助について指導ができる。

１６．緊急応急処置

概論

・日常臨床で遭遇する緊急応急処置にはどのようなものがあり、また、どのような対応をとるべきか説明できる。

各論

①各種トラブル（難易度　A）

・自院で遭遇する緊急応急処置にどのようなものがあるか列挙できる。

・上記に対して歯科助手としてどのような対応を取るか理解している。

②災害発生時の対応（難易度　A）

・災害発生時の患者誘導の手順を理解している。

③他者への指導（難易度　C）

・他者に緊急応急処置について指導ができる。

１７．本会主催スタッフ・プログラム及び推奨研修会への参加

概論

・本会の主催するスタッフ・プログラムの内容と種類を把握し、参加の意義について理解する。

（参加要件）

本項目は必須要件である。獲得ポイント数の目安は次のとおりである。

・1 講演＝1 ポイント

・大会全プログラム参加＝3 ポイント、例会全プログラム参加＝2 ポイント

・レベルⅡ：10 ポイント／レベルⅢ：20 ポイント／レベルⅣ：35 ポイント